

きびがら細工 (其二)

東京女子高等師範學校訓導 山 形 寛

四、きびがらを棒状のまま、

用ふる教材

きびがらを棒状のまま用ひて構成する諸種の教材は、幹を短く切つて豆の代用として構成するものよりも、構成が一層容易になり、且つきびがら細工本来の長所をよりよく發揮することになる。然し全部棒状のまま用ひたのでは、あまり多くの材料を要するから、物によつては籾竹又は皮と並用することもよい。又さうした方がより有意味な、より合理的な構成となるものも少くない。

斯かる構成法による教材は、豆細工では出来ない特殊なものもあるし、又豆細工でも出来るけれども、きびがらを用ひた方がより面白く出来るものである。以下少しくこれ等の實例に就て説明しやう。

一、汐干狩の熊手

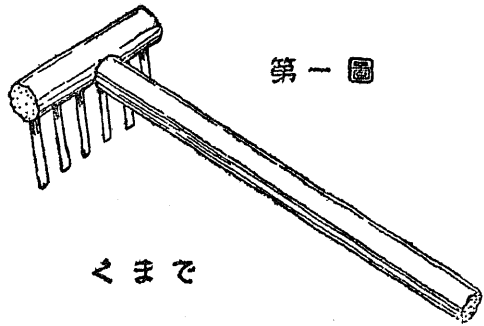
單に熊手としてもよいが、汐干狩の熊手と云つた方が面白い。その工作法は次の如くする。

(1) あまり太くないきびがら(皮をとつたもの)以下特に注意したもの、外は單にきびがらと云へ

揃へて仕上げる。

二、帚

第一圖



くまで

ば皮をとつたものと解されたい)を長さ約四センチ位に切つたものと、その三倍位の長さに切つたものとを作る。

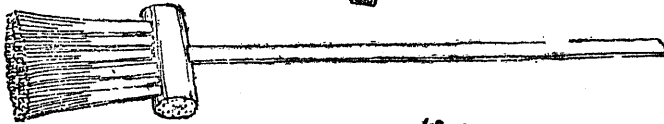
- (2) この二本のきびがらを第一圖に示す如く、皮又は籐竹で丁字形に接合する。
- (3) 籐竹又は皮を細く

く割いだものを長さ約三センチ位に切つたもの六七本を作る。

(4) 第三工程で作つた籐竹又は皮を、丁字形に接合したきびがらの短い方の材料に、第一圖に示す如く、少しく内向きに、且つ等距離に刺す。

(5) 刺した籐竹又は皮の先端を缺で切つて端を

第二圖



ほうき

(1) 少し太目のきびがらを長さ二センチ強に切る。

(2) きびがらの皮の幅の広いものを長さ約四センチに切つたもの數本を作り、各の小口を、皮の纖維の方向に、細かく缺できざんでさゝらの如くする。

(3) 第二工程で作つた材料の細割しない方を、第一工程で作つたきびがらに、なるべく多數刺し、先端の不揃の所を缺で切つて揃へる。

(4) 少しく幅の広いきびがらの皮を、長さ十二

三センチに切つたものを第二圖に示す如く刺して仕上げる。

この工作は形は簡単な様でも接合は割合に六ヶ敷いが幼児にでも出来ないことはない。

三、柄附ブラツシ

掃除の際用ふる柄附ブラツシは、熊手の丁字形の柄の先へ、箒の先端の如きさゝら状のものをつければ出来る。

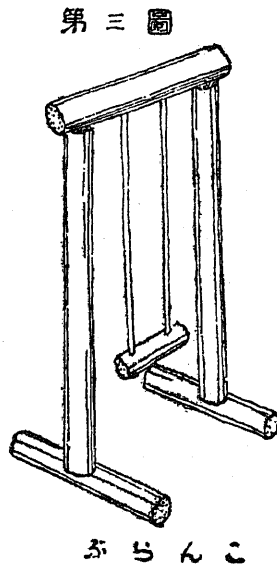
四、ぶらんこ

(1) 中位の太さのきびがらで、全長のまゝのもの(約十八センチのもの)二本と、約九センチのもの一本と、約八センチのもの二本と、細いきびがらで長さ約四センチのもの一本とを作る。

長さ約九センチのきびがらの両端に近く、接合するための籾竹又は皮を(長さ約三センチの

もの)直角に刺し、全長のまゝのまゝのきびがらを此所に接合する。

(3) 籾 又は細く割つた皮を、長さ約四センチに切つたきびがらの両端に近く、直角に接合し、他端を第二工程で作つたものゝ、長さ九センチの棒の中央に第三圖に示す如く接合する。これでぶ



らんこの形は大體出来たのである。

(4) 第三工程で作つたぶらんこを立てるために、長さ約八センチのきびがらの中央に、接合するための籾竹又は皮を直角に刺し、然る後ぶらんこ

柱の端を刺して圖の如くする。

此のぶらんこを作るに、兒童等に任意にやらせると柱其他に短い材料を用ひて、ぶらんこらしい感じのしないものを作ることがあるが、それでは形の觀念を養ふ上に拙いから、材料は多くかつても、圖に示す位の割合に作らせるがよい。

ぶらんこの乗る處を吊してある紐は、此の説明では籐竹又は皮で作る様になつて居るけれども、糸で作らせれば最もよい。

圖に示したやうな形に作つただけでは、柱の下部の開きが固定しないと思つたならば、立てるための臺（長さ八センチの材料）と臺との間に、皮の稍々幅の廣いものを入れるがよい。

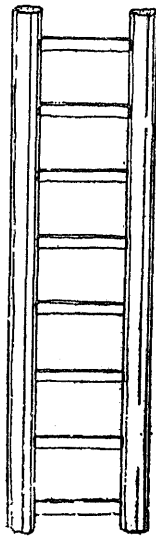
五、は し こ

中位の太さのきびがらの全長のまゝのもの二本と、少しく幅の廣い皮を長さ約六センチに切つた

もの數本とで作る。その接合法は、先づ一本のきびがらに、皮を等距離に直角に刺し、然る後他のきびがらを當てて端から順に接合するのがある。

この梯子を作る時に最も注意すべきことは、一本のきびがらに數本の皮を直角に等距離に刺すことである。直角に刺す作業は豆細工に於ける場合も同様な困難があるのであるが、等距離に刺すことは、豆細工の場合には籐竹を直してから、豆を動か

第四圖



は し こ

して修正することが出来るけれども、きびがら細工の時はそれが出来ないから、最初に刺す時に注意しなければならぬ。視覚と筋肉運動とを關係的に陶冶することはかゝる作業に於て忘る可らざることである。

六、寢 臺

第五圖及び第六圖は寢臺の工作順序と出来上りとを示したものである。之を製作するには次の如

くする。

(1) 先づ左記の諸材料を作る。中位の太さのき

びがらを長さ約十二センチに切つたもの二本(第

五圖A)同じ長さ約七センチに切つたもの二本(第

五圖B) 同じ長さ約四センチに

切つたもの三本(第五圖C) 同じ

長さ約三センチに切つたもの二本

(第五圖D)と、きびがらの皮をや

ゝ幅廣くはいだものを長さ約十三

センチに切つたもの五六本(第五

圖E) 同じ長さ約五センチに切つ

たもの二本(第五圖F)ときびが

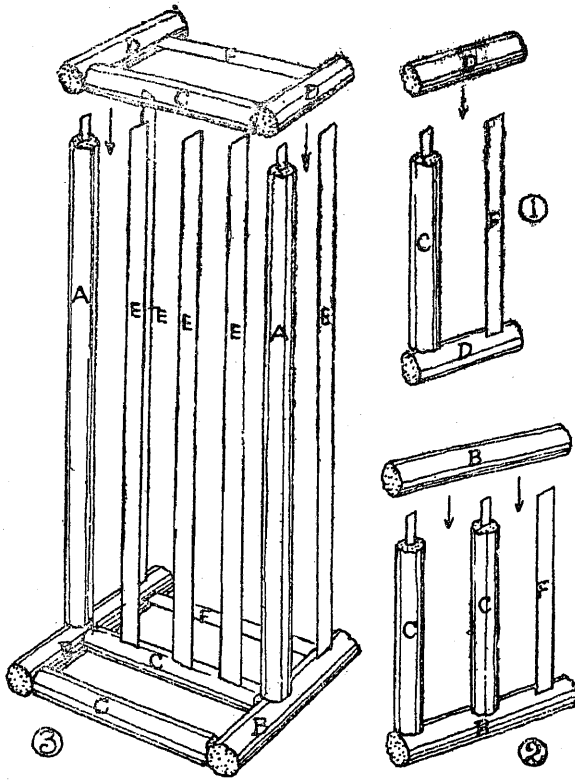
らの皮を細く切つたものを長さ約

三センチに切つた接合用の材料數

本とを作る。

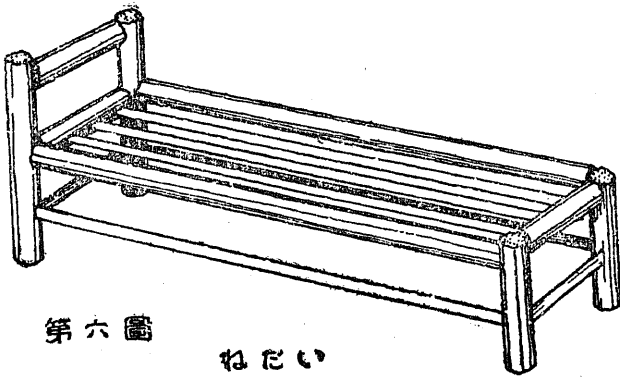
(2) B材料(長さ約七センチの

もの)の一端と中央とに、C材料



第五圖 ねたいの工作法

(長さ約四センチのもの)を直角に接合し、更にB材料の他端に近くE材料を直角に接合する。(第五圖2参照)



第六圖

ねだい

(3) 第二工程で作つたもの以外のB材料を第五圖2に示す如く接合する。

(4) 第二第三工程に準じて二本のD材料とEの兩材料とを第五圖1に示す如く接合する。

この時第三工程で作つたもの、(第五圖2)の下

半分の形と同じ形になる様にする。

(5) 第三工程で作つたものに、二本のA材料(長さ十二センチのもの)と、五本のE材料(長さ約十三センチに切つた皮)とを第五圖3に示すが如く、直角に接合する。この時E材料は總て幅の廣い方向をきびがらの纖維の方向と一致させて接合するの必要がある。

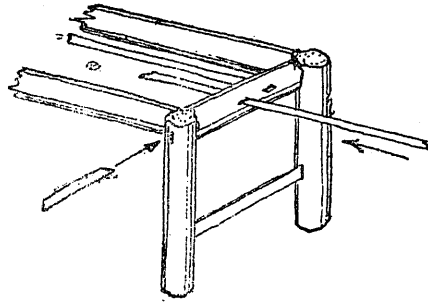
(7) 前工程で作つたものは第四工程で作つたものを、第五圖3に示す如く接合する。

(7) 全體の歪を修正して仕上げる。第六圖は仕上りの形を示したものである。

この工作に於て、寢臺の上面をなす部分には、この圖では三本の皮を用ひて居るけれども、これは四本乃至五本にしてもよい。然しあまりに接近して數多くつける時はかへつて接合部が弱くなる恐れがある。

第一工程で述べた材料さへ作れば、何處から作

つても作れるには作れるけれども、茲に述べた方法が、工作も容易であり且つ合理的な方法である。



第七圖 きびがら接合略法

然し幼児児童に作

らせるとしては、

先づ四本の脚と主

なる横棧を作らせ

て、然る後に寢臺

の上面の寝る所に

當る皮を併べて作

つた部分其他を作

らせてもよい。斯

くの如き方法は結

果はよくないけれども子供等の心理が斯様に動く場合には無理に合理的な方法に依らしめるの要もない。

ない。

接合部の工作を第七圖に示す如く外部から接合

用の皮を切つたもの或は皮をそのまま材料として

用ふるものを刺して作る方法をとれば、可なりの

變則的な方法によつても大した無理なく出来る。

この場合には若し外側に餘つた部分が突き出て居

る様な時は缺でその部分だけを切りとればよい。

この方法は幼児児童にはやりよい方法である。然

し結果は幾分きたなくなることがある。

幼児にきかせるおはなし

政

衛

十月十一月は運動遠足の季節、十二月は爐邊あたたかに談笑の家庭味豊に……つまらぬ小話も子供にきかせて、少しでもそれによつて軽い温い感じが起ればうれしい。